



えびの市観光大学

えびの時空散走の取り組みについて
(宮崎県地域の魅力再発見支援事業)

えびの時空散走プロデューサー 陸奥賢

【マス・ツーリズムの構造的問題】

- マス・ツーリズム＝大衆（マス）のための観光
- 集客（消費者、消費額）は多ければ多いほど良い

■「大衆」（マス）・・・顔が見えない、匿名的な集団、一過性の存在、他者性、刹那的、瞬間的、胡乱、無責任

■マスを動かすためには、わかりやすく伝える必要性が生じる→
そのために「単純化」「ワン・パッケージ化」「CM化」が進む

※大阪でいえば「Y・T・T」（吉本、タコ焼き、タイガース）

※多種多様な地域文化、地方文化を蔑ろにしている

※また収益化、ビジネス化できない文化資源は無価値と見做される

※さらにマス・ツーリズムに成功した都市、観光名所ではオーバーツーリズム（観光災害）の問題が顕在化、深刻化している

【コミュニティ・ツーリズムの可能性】

コミュニティ…顔が見える関係、共同体、身内、知人、友人、仲間、同質性、五縁（血縁、地縁、学縁、社縁、趣縁）

■「大阪あそ歩」「いわき時空散走」

地産地消の観光であり、内需の観光である

※大阪はマス・ツーリズムが急拡大した都市だが、Y T T的な「シミュラクル（まがいもの）な大阪」のみが注目され、大阪人自身が豊潤な大阪文化を見失っているのではないか？

※いわきは震災の影響もあり、いまだに観光者数は回復していない。また14市町村が合併して誕生した中核市で、一時期は「日本一広い市」であった。広いだけに日本一の車依存率で、車社会化が進み、地元をゆっくりと歩く、丁寧に見て回るといった経験が圧倒的に少ない



2008年、大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会（大阪市、大阪府、大阪観光コンベンション協会など）を母体として発足し、プロデューサーに陸奥賢が就任。陸奥は立ち上げから約5年間（2013年1月まで）同プロジェクトに携わった

大阪市内だけで300コースのまち歩きコース（150のスタンダードコースのマップ、150のショートコースのマップ）を作成し、2012年に観光庁長官表彰を受賞。コミュニティ・ツーリズムのプロジェクトとしては日本初の受賞となった

大阪は「まち」がほんまにおもしろい



9 粉浜商店街

大正8年(1919)に粉浜の米屋さん7名が店舗を構えたことが粉浜商店街のはじまりです。住吉大社の門前市として発達して、現在では350メートルの商店街に120店舗もの店が並んでいます。3、4代続く老舗も多く、豆腐やこんにゃく、うどん、おかきなどの専門店などは住吉名物として参詣客が親しまれています。月初めには商売繁盛、家内安全を願うイベント「はったつ市」を主催。住吉大社参詣のおみやげ処としてオススメです。

8 住吉大社

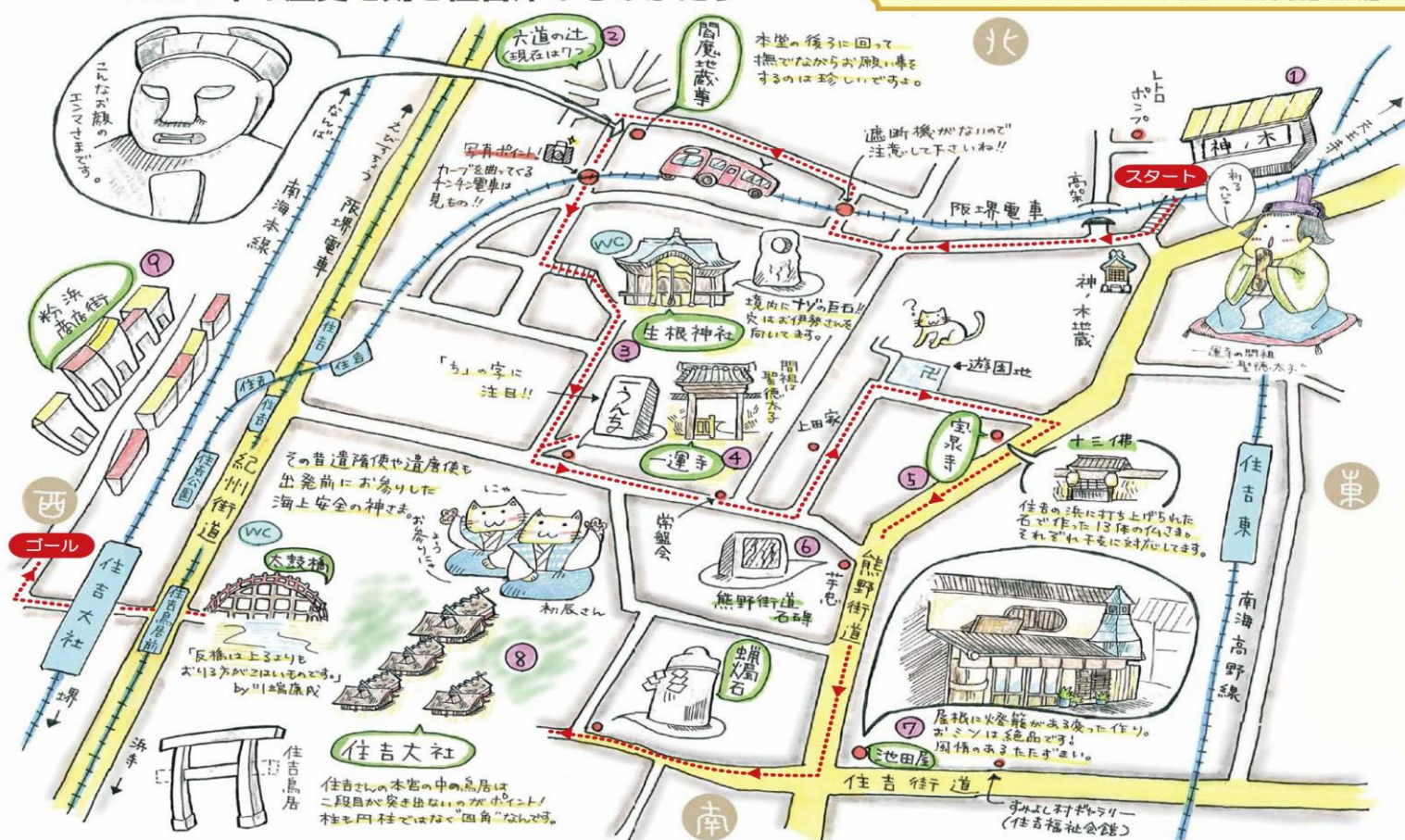
神功皇后11年(211)創建。日本全国にある住吉神社の総本社で、住吉三神と神功皇后を祀っています。本殿は国宝で、遣隋使や遣唐使は航海のさいは、必ず住吉大社に参詣しました。住吉津は日本最古の国際港で、シルクロードの玄関口でした。おとぎ話「一寸法師」は、子宝に恵まれなかった初老の夫婦が住吉大社に参って子供を出産し、その子供が住吉津から大阪湾、淀川、京にのぼって鬼退治をするという話です。また有名な反橋(太鼓橋)は、慶長年間に淀殿が寄進した、長さ約20m、幅約5.8mの木造桁橋です。朱色の優美なシルエットが美しく、大阪出身のノーベル文学賞作家・川端康成の自伝的小説「反橋」(1948年発表)では、「反橋は上るよりもおりる方がこはいものです。私は母に抱かれておりました」という名文句によって回顧されています。

7 池田屋本舗

元禄年間(1688~1704)に酒造業として創業しましたが、明治初期に味噌作りを始めました。明治、大正、昭和天皇にも献上された「住之江味噌」は住吉名物として有名です。熊野街道と住吉街道の四つ角にあって、表の屋根には住吉大社の高灯籠が置かれています。明治25年(1892)の建築ですが、白壁の虫籠窓など昔ながらの風情を伝える商家で、国指定登録有形文化財になっています。

祈りのまち・住吉を歩く

~1800年の歴史を刻む住吉津のものがたり~



6 熊野街道石碑

京都から熊野三山(熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社)までの約300キロに及ぶ参詣道で、その一部はユネスコの世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録されています。平安時代中期から熊野三山が阿闍陀信仰の聖地として信仰を集め、延喜7年(907)に宇多上皇が参詣すると皇族、女院の参詣(熊野御幸)や貴族の参詣が相次ぎ、とくに鳥羽上皇21回、後鳥羽上皇28回、後白河上皇に至っては32回も熊野参詣しています。室町以降は武士や庶民の参詣が盛んになり「鐵の熊野詣」と言われるほどの賑わいとなりました。

5 宝泉寺 十三仏

天元5年(982)に「住生要集」で有名な源信上人が開基した融通念仏宗の寺院です。十三仏は元亀年間(1570~73)に、旧住吉村字石本(神ノ木駅付近)にあった巨石を刻んだもので、釈迦如来以外の十二仏は「千支の守り本尊」として信仰されています。薬師如来、弥勒菩薩、地藏菩薩3体は他に比べて小さく「石工の計算違い?」という説もあって親しまれます。また「幽霊の片袖」の発祥地で、元和3年(1617)に箱根山の行者の前に女性の幽霊が現れて「私は住吉大社禰宜・山上松太夫の妻ですが旅先で倒れてしまいました。宝泉寺の道の上人に回向をお願いします」と片袖を手渡しました。実際に行者が住吉を訪ねると山上松太夫は宝泉寺の檀家で、道の上人は融通念仏宗総本山・大念仏寺法主となっていたので、現在は大念仏寺宝物殿に幽霊の片袖と香合が残っています。正式に鑑定したところ、間違いなく江戸時代初期の片袖という結果も出ています。

4 一運寺

推古21年(613)に聖徳太子が建立して最澄、空海、法然などもご説法なさったという住吉きっての名刹です。境内には赤穂浪士の大石良雄・主税親子と寺坂吉右衛門のお墓があって、これは赤穂浪士を資金面で援助した大坂商人・天野屋利兵衛の子孫が建てたものです。利兵衛は討入り用の槍を堺の職人に製作依頼しましたが、職人たちは突然の臨時収入に喜んで住吉の料亭・三文字屋で豪遊しました。このとき隣座敷に町奉行がいて「なぜ槍などを作るのか?」と怪しまれ、利兵衛は捕縛、拷問されます。しかし義理堅い利兵衛は「天野屋利兵衛は男でござる!」と啖呵を斬って吉良邸討ち入りが終わるまで決して口を割りませんでした。ちなみに捕物劇の舞台となった三文字屋は、現在では奇しくも住吉警察署となっています。

遣隋使、遣唐使が出立の際に必ず立ち寄った古代難波津の守護神・住吉大社。1800年もの歴史を有して、いまでも民衆の祈りが色濃く残る住吉大社とその周辺を巡ります。めずらしや、六道の辻「閻魔地蔵」は必体験!

1 神ノ木駅

かつて住吉の地が海岸地帯であったころに大きな古松があり「神の木」(現在は消失)として崇められていたことから駅名になりました。駅近くには神ノ木地蔵さんがいます。ここから「大阪あそぼ」がスタート!

2 六道の辻 閻魔地蔵

道が1本増えて「七道の辻(?)」になっていますが、昔は6本道だったので、今でも「六道の辻」と呼ばれています。仏教の輪廻転生の教えでは、人が死ぬと生前の行いを閻魔王に審査されて、六道(地獄・餓鬼・畜生・人間・修羅・仏界)に生まれ変わります。地獄に落ちたさいに唯一、救済してくれるのが地蔵菩薩ですが、地蔵菩薩は閻魔王の化身という説もあって、閻魔地蔵は、そうした考え方が反映された珍しいお地蔵さんです。その昔、難波の浜辺から運ばれて、六道の辻に来たさいに、急に重くなって一歩も進めなくなったので当地に安置されました。戦国時代の天文7年(1538)の銘が刻まれて、恐ろしい閻魔王の姿をしています。心は優しい地蔵菩薩として地元住民に崇められて、いまでもとくに本堂の後ろに回って壁を撫でながらお願いごとをすると霊驗あらたかとか。

3 生根(いくね)神社

住吉大社より古くから当地に鎮座していたという伝承があります。ご祭神は少彦名命で、現在の本殿(大阪府指定重要文化財)は淀殿の寄進で造営されました。境内社の天満宮の菅公木製御神像は、文明14年(1482)、天台法主・融円律師作で国宝級の価値を有しています。菅公像は時代を経るにつれて怒顔から笑顔に変わる傾向がありますが、木製御神像は無表情で過渡期にあることがわかります。また本殿東側にある神明穴立石は少彦名命ゆかりの海浜の石を運んで「何首烏」(漢方薬、強精剤の名前)と刻んで崇めたもので、和歌浦より一夜で住吉浜までやってきた...という伝説もあります。穴の位置は東西を向いて伊勢神宮を遥拝するように立てられています。

【注意事項】この地図は「大阪あそぼ」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそぼ」事務局 電話06-6282-5930 (財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそぼ」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそぼ」でネット検索を。

大阪あそぼのコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。

■自分たちのコミュニティ、足元、地元、まち、ふるさとを改めて巡ってみよう

- わがまち意識、アイデンティティの確認、身土不二、郷土愛、「まちびと」としての誇り、愛着、愛情などが涵養される、「等身大の物語」と出会う、「小さな物語」の発見…セラピー、回復していく

■情報（データ）と物語（ナラティブ）

- 代替可能なもの…情報、データ、「いいね」の数
- 代替不可能なもの…物語、それと出会ってしまったことで、自分の世界観が変容してしまうもの

■コミュニティ・ツーリズムはコミュニティ内のネットワークを活性化させる

マス・ツーリズムの参加者はリピーターしない（しにくい）。しかしコミュニティ・ツーリズムの参加者はコミュニティ内部、コミュニティ周辺の参加者なので再訪しやすい。リピーターしやすい。そうすることでコミュニティ・ネットワークが強化されていく。その結果、新しいコミュニティ・プロジェクトが生まれて、活性化に繋がっていく

※いわきでのコミュニティ・プロジェクト、文化創出の事例…田部君子フェスティバル

～磐高、磐女の青春の舞台から歌人・田部君子ゆかりの地まで～

お問い合わせ先
0246-85-0170 (いわき市自転車文化事務局・交流拠点/ノルwegia) contact@bike-jansso.jp (いわき市時空交差事務局)

大正5年石城郡入遠野村に生まれ、2歳から平市で育った田部君子という女性を知っていますか？彼女は藤田女学校（現いわき市平）に入り、短歌の才能を開花させます。雑誌「潮音」での君子の活躍は目覚ましく、44回投稿し39回「特選」に選ばれていて、それは新人としては破格の扱いでした。しかし、歌人として華やかな人生を送るはずだった田部君子の短歌の創作は、16歳から22歳までのわずか7年間でした。結婚に始まった不運に苦しめられ、戦争という時代に阻まれ、27歳で短い生涯を閉じました。

「いわき時空散走プロジェクト」において「平」をリサーチしている中で、私たちは田部君子さんとお会いしました。当初平のまちなかを探しても、彼女の痕跡を見つけることは出来ず、幸いにも令和3年9月18日～11月16日にいわき市勿来閣文学歴史館においてスポット展示「田部君子—清きほこりを高くかかぐる—」及び講演会「身をふるはせて—今、私たちが読む田部君子—」が行われていたため、ネットの中でその時の資料が見つかり、彼女の存在を知る事が出来たのです。



FAROトークシリーズ

NEXT TO THE DOOR Vol.37

2024.10.1 (火) 19:00~



You Tube LIVE配信

田部君子を知っていますか？

出展
飯森沙百合 黒田勇 望月寛斗 佐々木章見
(Co. 山田うん)

アリオスダンスプロジェクト
時空おどりびと
田部君子編

生れきて
十八年のわれのこの

往く人らみな晴々しわがはけるフェルト草履のはずむ舗装路
あたらしい時代へと、
憧れと覚悟をもって
歩きだそうとした
くらみを今朝のバスより見てゆく街道

早世の歌人・田部君子
に捧げる鎮魂のダンス！

スキートビー水々しさをもちこみ今朝のバスに乗心地かな

田部君子略年譜 (1916年5月13日～1944年3月17日 享年27歳)

お申込み・お問合せ
アリオスチケットセンター <https://i-waki-alios.jp>

0246-22-5800
(10:00～20:00 毎週火曜定休)
※おかげ間違いないご注意ください

お申込み・お問合せ
アリオスチケットセンター <https://i-waki-alios.jp>

0246-22-5800
(10:00～20:00 毎週火曜定休)
※おかげ間違いないご注意ください

プロフィール
山田うん率いるダンスカンパニー。2002年設立。メンバーは俳優、モデル、演奏家、振付家、演出家、指導者といった肩書きを持つ個性あふれる実力派ダンサー。国内外での舞台活動、MVやCM、ショーイベントなどのエンターテインメント、福祉施設や学校でのワークショップ、伝統芸能やサイエンス、レストランとのコラボレーションなど、オープンで革新的な活動を国内外で行っている。2022年の基題作「In C」では、令和4年度(第77回)文化庁芸術祭賞舞踊部門関東参加公演の部優秀賞受賞。
<https://www.unyamada.co.com>

地域とダンスをテーマに
かかってないプロジェクトが
動きだす！
『時空おどりびと』とは？

『時空おどりびと』は、本企画担当者がまちの人たちとの交流を深めるなかで生まれたアイデアです。第一弾となる今年度の“おどりびと”はCo.山田うんのダンサーたち。“時空を超えた、地域の物語を紡ぎながら、自転車で走っていき”——そんな思いのもと2023年にはじまった「いわき時空散走プロジェクト」(主催：いわき自転車文化発信・交流拠点ノレル?)のリサーチを経てひととかれた、いわき出身の歌人・田部君子の魂とまちなかの風景が響きあうダンス作品をお届けします。

1916(大正5)年 5月13日、いわき市遠野町入遠野に生まれる
父 田部千代三、母 ミキ、1男6女の長女

1918(大正7)年 2歳 君子を連れて祖父母がいわき市常磐湯本町に転居

1931(昭和6)年 15歳 平の藤田女学校に入学
(当時の祖父母の住所が平)

1933(昭和8)年 17歳『潮音』6月号に初投稿
8月6日、太田水穂が藤田女学校で講演

1934(昭和9)年 18歳 藤田女学校卒業

1936(昭和11)年 20歳 潮音社第4回記念大会(鎌倉 円覚寺)出席
結婚、いわき市内郷高野町に住む

1937(昭和12)年 21歳 4月3日、息子 龍正誕生

1939(昭和14)年 23歳 第二次世界大戦はじまる
潮音社秋季郊外短歌会(鎌倉 円覚寺 佛日庵)出席
家を出て上京、父母に龍正を預けるが連れ戻される
『潮音』12月号が最後の投稿

1940(昭和15)年 24歳 祖父 田部吉四郎死亡、離婚

1941(昭和16)年 25歳 中村幾造と結婚、文京区湯島に住む
11月1日、息子 紀久雄誕生
太平洋戦争はじまる

1943(昭和18)年 27歳 紀久雄が小児麻痺を発病

1944(昭和19)年 27歳 江戸川区上一色に住居を購入転居
3月17日、肋膜炎悪化により死亡(享年27歳)
母 ミキが紀久雄を引取って育てる

1945(昭和20)年 7月1日、弟 力がレイテ島で戦死
8月15日、第二次世界大戦終戦

※田部君子略年譜は『田部君子歌集』より参照



■アリオスダンスプロジェクト「時空おどりびと 田部君子編」
 主催：いわき芸術文化交流館アリオス
 協力：いわき自転車文化発信・交流拠点 ノレル？
 参考資料：『田部君子歌集』（編著：池部淳子・池部道子）

【えびの時空散走プロジェクト】

- 宮崎県えびの市で、2025年度中にえびの時空散走マップを4マップ作成予定
- 基本的に「駅」をスタートとして作成。サイクル・ツアーのみならず、まち歩き、ウォーキングにも使えるマップにしている
- 地元住民、地域の方のご協力を得ながら、現在、リサーチを積み重ねて鋭意作成中

【えびの時空散走ツアー予定】

2025年

①10月18日（土）午後スタート

②10月19日（日）午前スタート

※定員は10名ほどを予定しています

- 道の駅「えびの」（アウトドアステーションえびの）から出発して、東コース、西コースをツアーで実施予定。サポーターさん（えびのの地元の方）と一緒に自転車で巡る。レンタサイクル（電動もあります）もあり。距離は10キロ以内、時間は3時間ほど。途中で飲食など休憩（お店訪問）を挟む予定です

【えびの時空散走マップはすべてコモンズ・デザイン（共有財産）です】

- ※マップ（PDF）は今年度中に完成させ、オープンフリーで、共有財産（コモンズ）として無料開放する予定です
- マップを使いながら、みんなでサイクル・ツアーをするもよし、ひとりで歩いて巡るもよしです。ツアーのツールのみならず、まちづくり、教育、文化振興、防災、会社研修など、いろんな場や人に利用されることを願っています